

児童・教師・保護者がつながる学級経営の開発的実践

—「他者理解」「自他の尊重」に焦点を当てた介入プログラムの開発的実践—

杉田 亮介¹⁾, 柴 英里²⁾, 岡田 倫代²⁾

1) 高知大学大学院総合人間自然科学研究科教職実践高度化専攻 院生

2) 高知大学大学院総合人間自然科学研究科教職実践高度化専攻

Developmental practice of class management that connects children, teachers and parents

—Developmental practice of intervention programs focusing on "understanding others" and "respect for others"—

SUGITA Ryosuke¹⁾, SHIBA Eri²⁾, OKADA Michiyo²⁾

1) Programs for Advanced Professional Development in Teacher Education
Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Kochi University, Graduate student

2) Programs for Advanced Professional Development in Teacher Education
Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Kochi University

要約

不登校や問題行動の背景には、対人関係を上手に築けないことからくる学校不適応や、無気力、複雑な家庭環境、親子関係などの存在が指摘されている。対人関係の構築に焦点をあてると、コミュニケーション能力や技法の習得を介して、人間関係の形成や変化、活性化を促進する一つの手法として、構成的グループ・エンカウンター（以下SGE）がある。SGEは、1970年代後半に國分康孝らによって提唱され、これまで多くの実践研究においてその効果が検証されてきた。そこで本研究では、コミュニケーションの活性化と人間関係の醸成を目的として、授業の中にSGEを取り入れ、「他者理解」「自他の尊重」をテーマとした授業プログラムの開発を行った。その結果、「他者理解」「自他の尊重」のいずれの授業実践においても、95%以上の児童が「よくできた」もしくは「できた」と回答しており、本授業プログラムに意欲的に取り組めたことが示唆された。また本授業プログラムでは、学級集団内だけでなく家庭内でのコミュニケーション促進も意図していた。授業前に児童が保護者に対して聞き取りを行い、その内容をもとに授業を展開していき、授業後には学級通信等で保護者に授業や児童の様子を可能な限り具体的に伝えた。その結果、「自他の尊重」授業後に実施した保護者アンケートでは、学校生活に関する会話が増えたと回答した者の割合が約6割であった。このことから、本授業プログラムを介して、学級集団内だけでなく家庭内でのコミュニケーションが活性化される可能性が示唆された。

キーワード：不登校予防 構成的グループ・エンカウンター 対人コミュニケーション

I. はじめに

教育現場では、何が不登校の原因・引き金になったのかだけでなく、いつから不登校になったのかについて論じられる。文部科学省（2019）の統計によると、不登校の始まりは中学からというケースが最も多く、通称中1ギャップを起こさないために、どう小学校6年生から中学校1年生へ橋渡しするかが重要視されている。しかし中1ギャップ以前に、小学校4年生から5年生、5年生から6年生に進級する際にも不登校のケースが増えていることがうかがわれる¹⁾。

人が人生をよりよく生きるためには、仲間と有意義な対人関係を築くことが必要不可欠であり、仲間関係によって、さまざまな社会的行動の発達に必要な文脈をつくりだすことができるといわれている²⁾。ギャング・エイジとは、小学校3・4年生の児童期中期から小学校5・6年生の児童期後期にかけてみられる特徴的な仲間関係のことを指し、その特徴としては、同一行動による一体感が重視されること、力関係による役割分化がみられること、グループメンバーと強く結び付くことで親から自立しようとする際に生じる不安が和らげられること等が知られている²⁾。児童期中期以降の児童は、ギャング・グループでの活動を通して、適切な自己主張の方法や、ルールを守るなどの、社会生活に必要なさまざまなスキルや知識を習得するという²⁾。

一方で、現代では核家族化や少子化の進行、塾や習い事による遊ぶ時間の減少、都市化に伴う遊び空間の喪失、テレビゲームの普及など、子どもたちを取り巻く環境の変化によって、地域の仲間集団は解体され、ギャング・グループは消滅したという報告がある³⁾。現代の子どもたちは、従来、仲間集団のなかで学ぶことが学ばなくなってきたといわれており、仲間関係の形成、発展に大きな困難を抱える子どもが多いとの指摘もある²⁾。以上のような背景から、学校における児童の仲間関係づくりは、とりわけ児童期中期から後期において、不登校予防の観点から喫緊の課題であると考えた。

コミュニケーション能力や技法の習得を介して、人間関係の形成や変化、活性化を促進する一つの手法として、構成的グループ・エンカウンター（Structured Group Encounter；以下、SGE）がある。SGEは、1970年代後半に國分康孝らによって提唱され、これまで多くの実践研究においてその効果が検証されてきた⁴⁾。

以上を踏まえて、対人コミュニケーションを介してより良き人間関係の形成・維持・発展を促すことができれば、不登校の一次予防につなげることができるのではないかと考えた。そこで本研究では、児童期後期にあたる小学校5年生を対象とし、SGEの手法を用いてコミュニケーションの活性化と人間関係の醸成に焦点をあてた授業プログラムを開発・実践することを目的とした。具体的には、研究1で児童及び保護者に対する質問紙調査を実施し、家庭内コミュニケーションの実態と課題を把握した。研究2では、研究1での課題を踏まえた授業プログラムを開発し、その効果を検証した。

II. 研究1「家庭内コミュニケーションの実態把握」

1. 目的

コミュニケーションの活性化と人間関係の醸成に焦点をあてた授業プログラム開発に臨み、家庭内コミュニケーションの実態と課題を把握することを目的とした。これは、児童はもとより、保護者とも何らかの形でコミュニケーションできる授業プログラム開発を意図していたためである。

2. 方法

2-1. 調査時期及び対象者

X年5月にA小学校5学年3クラス計96名(男子54名、女子42名)及びその保護者を対象とした。

2-2. 調査内容

児童及び保護者を対象として、家庭内コミュニケーションの実態を把握するために児童用アンケート（記名式）と保護者用アンケート（無記名）を作成した。質問項目は次の(1)～(3)の3項目であつ

た（【 】内は保護者に対する質問項目）；(1)「お家の人と、よく話をするほうですか？【お子さんと、よく話をするほうですか？】」；(2)「お家の人と、もっと話したいと思いますか？【お子さんと、もっと話したいと思われませんか？】」；(3)「お家や学校のことで気になっていることはありますか？また、それはどんなことですか【お子さんのことで気になっていることはありますか？また、それはどんなことですか】」。(1)の質問項目は、「よくするほうだ」「まあまあするほうだ」「あまりしないほうだ」「しないほうだ」(4件法)で回答を求めた。(2)の質問項目は、「そう思う」「まあまあそう思う」「あまり思わない」「思わない」(4件法)で回答を求めた。(3)の質問項目では自由記述で回答を求めた。(3)の自由記述データを用いて、語句の抽出を行い、児童ならびに保護者が学校生活で気になっていることを探った。

2-3. 倫理的配慮

倫理委員会に代わるものとして、学校長及び実習該当学年の教職員に対して筆者らが本研究の目的と方法及びプライバシー保護に関する説明を行い、了承を得た。調査対象への倫理的配慮として、調査を拒否してもよいこと、調査結果は個人が特定されないこと、全ての調査結果は本研究の目的以外には使用されないことを、口頭及び保護者宛て文書にて説明した。調査票の提出を以ってこれらのことが了承されたものと判断した。さらに、実施年度についてはプライバシー保護の観点から論文中では明記しないことにした。

3. 結果及び考察

質問項目(1)の結果を表1に示す。家庭内コミュニケーションの頻度について、児童・保護者とも、「よくするほうだ」「まあまあするほうだ」と回答した者の割合が約9割を占めた(表1)。このことから、ほとんどの児童・保護者が、日常生活において十分に家庭内コミュニケーションがなされているととらえていることがわかった。しかし質問項目(2)でもっと話したいと思う者の割合は、児童(83.0%)の割合が保護者(97.2%)の割合が14.2ポイント高かった。平日、児童は多くの時間を学校で過ごす、保護者が学校における児童の様子を知ることのできる機会は非常に限られている。そのことが子どもともっと話がしたいという保護者の回答の多さと関連している可能性がある。また質問項目(3)の自由記述から、友人関係は、児童と保護者の双方に共通する懸念事項であることが明らかとなった(表2)。

表1. 「親子コミュニケーション」に関する調査結果

| 項目 | 児童 % (n) | 保護者 % (n) |
|-----------|----------|-----------|
| よくするほうだ | 51.1(49) | 54.2(39) |
| まあまあするほうだ | 38.4(37) | 41.2(30) |
| あまりしないほうだ | 9.4(9) | 4.2(3) |
| しないほうだ | 1.1(1) | 0(0) |

表2. 「家庭内コミュニケーション」調査結果から見えてきた課題

| 児童が気になっている事 (一部抜粋) | 保護者が気になっている事 (一部抜粋) |
|-------------------------------------|--|
| 友だちに嫌な事をいわれる あるけど言いたくない 友だちの事 | 友だちとの関係について ゲーム依存症にならないか 自分の気持ちや伝えたいことを 言葉で表現できない |

これらの結果から、友人関係を視野に入れた対人コミュニケーションの基盤となる授業テーマを設定することが必要であると考えられた。また授業を介して保護者とコミュニケーションできる方法を模索する必要性が示唆された。

Ⅲ. 研究2「SGEを組み込んだコミュニケーション促進のための授業開発」

1. 目的

研究1を踏まえて、「他者理解」「自他の尊重」を授業テーマに設定し、授業開発を行うこととした。

授業開発に際し、授業を介して、教室内だけでなく保護者・児童間の家庭内コミュニケーションを促進することのできる教材等が必要と考えた。そこで授業後に発行する学級通信等で保護者に授業や児童の様子を可能な限り具体的に伝えることで、家庭内でのコミュニケーションの活性化を図った。

2. 方法

2-1. 実施時期及び対象者

X年5月にA小学校5学年3クラス計96名（男子54名，女子42名）を対象とした。なお児童らは研究1の対象者と同じであった。

2-2. 他者理解の授業開発及び教材開発

1) 学習指導略案

図1に「他者理解」の学習指導略案を示す。
 「他者理解」の授業では、「決めつけ」や「思い込み」が正しい判断の妨げとなることに気付かせ、色々な見方をしようとする気持ちを育むことをねらいとした。題材として『色々な国の人が住むマンション』⁷⁾というグループワーク・トレーニングを活用した。導入時に、代表的な「錯視」を子ども達に提示し、文字通り視覚による錯覚、「見た目による思いこみ」を体験させた。最初は、老人にしか見えなかった絵が、視点を変えると様々な絵に見えることを実感させようと試みた。その後、グループに与えられた課題を、班で解決していく活動「色々な国の人が住むマンション」を行った。ルールを守りながら解決していく過程で、協力したり葛藤を乗り越えたりすることで、自分だけでなく他の児童の言動・感情・考えなどに気づいてもらうことを意図した。最後に、「友だちがどんなことをしていたか」や「自分や他の友だちに対する新しい気づき」について考える時間をとることで、他者理解を促した。

第5学年 特別活動学習指導略案

1. 題材名
色々な人が住むマンション
2. 本時のねらい
「決めつけや」「思い込み」は專業に基づいた正しい判断ではないことに気付かせ、色々な見方をしようとする気持ちを育む。
3. 本時の展開

| 学習活動 | 教師の支援 |
|--|---|
| 1. 視点を变えることで、様々な物の見え方があることに気付く | ・意識していない事には気づきにくいことについておしえる。 |
| 自分や友だちのさならるよところを見つけよう。 | |
| 2. 本時の活動内容やルールを知り、本時のめあてをつかむ。 (ア) 活動内容を知る (イ) 情報カード、図を確認する (ウ) 「ルール」を確認する | 「ルール」の提示 1.自分の持っている情報は、言葉で伝える 2.他の人の情報は、情報カードをのぞき込んで見たり、自分の情報カードを他の人に隠したり、あせたりすることはできない 3.情報カードをそのまま書き写して一覽表に書くことはできない 4.最後まで、きちんと話を聞く 5.どのような意見であっても、間違いと決めつけない |
| 3. グループワーク・トレーニングを始める。 ・封筒に入っているカードを裏返しにしてグループのみんなでトランプを配るようあげる。 ・課題を解決するために話し合う | ・振り回し用紙の説明を行い、意識して話し合いを行えるようにする。 |
| 4. 終了、解答発表 | ・グループの動き、個人の動き、グループの集中度をチェックする。 |
| 5. 活動の振り返りをする。 | ・振り返りシートに感じたこと、考えたこと、これからのことを記入させる。 ・グループで自由に感想を出し合った後、全体で共有する。 |

図1 「他者理解」学習指導略案

2) 教材開発

図2に作成した教材を示す。教材の使用方法は、次の(1)～(3)の通りである。

- (1) 20枚の情報カード(図2 ①)を分け合う。手元にある情報をもとに、話し合いを行いグループ内で協力して正解を求める。
- (2) 情報カードから分かったことを、マンションの図(図2 ②)に記入する。
- (3) 活動終了後に、だれがどのような役割をしていたかや、自分や他のメンバーに対する新しい気づきや学習感想をふり返りシート(図2 ③)に記入する。

| | |
|----------------------------|----------------------------|
| ① 国語の授業で、自分の生活の様子や思いを伝えよう。 | ② 国語の授業で、自分の生活の様子や思いを伝えよう。 |
| ③ 国語の授業で、自分の生活の様子や思いを伝えよう。 | ④ 国語の授業で、自分の生活の様子や思いを伝えよう。 |
| ⑤ 国語の授業で、自分の生活の様子や思いを伝えよう。 | ⑥ 国語の授業で、自分の生活の様子や思いを伝えよう。 |
| ⑦ 国語の授業で、自分の生活の様子や思いを伝えよう。 | ⑧ 国語の授業で、自分の生活の様子や思いを伝えよう。 |
| ⑨ 国語の授業で、自分の生活の様子や思いを伝えよう。 | ⑩ 国語の授業で、自分の生活の様子や思いを伝えよう。 |
| ⑪ 国語の授業で、自分の生活の様子や思いを伝えよう。 | ⑫ 国語の授業で、自分の生活の様子や思いを伝えよう。 |
| ⑬ 国語の授業で、自分の生活の様子や思いを伝えよう。 | ⑭ 国語の授業で、自分の生活の様子や思いを伝えよう。 |
| ⑮ 国語の授業で、自分の生活の様子や思いを伝えよう。 | ⑯ 国語の授業で、自分の生活の様子や思いを伝えよう。 |
| ⑰ 国語の授業で、自分の生活の様子や思いを伝えよう。 | ⑱ 国語の授業で、自分の生活の様子や思いを伝えよう。 |
| ⑲ 国語の授業で、自分の生活の様子や思いを伝えよう。 | ⑳ 国語の授業で、自分の生活の様子や思いを伝えよう。 |

①情報カード (1グループ1セット)

色々な国の人が住むマンション

| 階 | 住んでいる人の名前 | 出身国 |
|---|-----------|-----|
| 6 | | |
| 5 | | |
| 4 | | |
| 3 | | |
| 2 | | |
| 1 | | |

②マンションの図 (1グループ1枚)

活動の振り返りシート

名前 日 月 年 組 () 番 ()

1. 活動の振り返りシートに記入した内容を振り返り、自分の感想や気づきを書きなさい。

| 項目 | 達成した | 達成できなかった | 達成できなかった理由 | 達成できなかった改善策 |
|--|------|----------|------------|-------------|
| 1. 活動の振り返りシートに記入した内容を振り返り、自分の感想や気づきを書きなさい。 | ☆ | ☆ | ☆ | ☆ |
| | ☆ | ☆ | ☆ | ☆ |
| | ☆ | ☆ | ☆ | ☆ |
| | ☆ | ☆ | ☆ | ☆ |
| | ☆ | ☆ | ☆ | ☆ |
| | ☆ | ☆ | ☆ | ☆ |
| | ☆ | ☆ | ☆ | ☆ |
| | ☆ | ☆ | ☆ | ☆ |

2. 活動の振り返りシートに記入した内容を振り返り、自分の感想や気づきを書きなさい。

記入してある、空欄で、自分の感想や気づきを書きなさい。

例

3. 活動の振り返りシートに記入した内容を振り返り、自分の感想や気づきを書きなさい。

③振り返りシート (各個人1枚)

図2 作成した教材

3) 通信

図3に作成した通信を示す。

鈴木 (2012) は、「学級経営における学級通信の役割」⁸⁾において、『学級経営において重要な役割をはたす学級通信を生み出すためには「子どもの生活の様子」や「授業の様子」を重視することが大切である』と述べている。そこで①授業の紹介、②授業中の児童の様子、③授業者の所見、④児童の感想、⑤保護者へのアンケートの5項目から構成される通信を発行した。これは保護者にも学校の授業に興味・関心をもってもらうためであった。またファイルを各児童に配布し、通信や授業で使用したワークシート等を授業ごとにファイリングさせ、各家庭に持ち帰らせた。その際、通信と一緒に添付した保護者アンケートに任意で回答してもらった。



図3 作成した通信

2-3. 自他の尊重の授業開発及び教材開発

1) 学習指導略案

図4に「自他の尊重」の学習指導略案を示す。

「自他の尊重」の授業では、相手の名前を大切に扱うこと、相手に思いやりを持ちながら大切に接することにつながるという事に気付かせることをねらいとした「名前」についての授業を行った。授業導入時には、阿部 (2012) が作成したひらがな一覧版ネームレターテストを行った⁹⁾。このテストには、自身の氏名に含まれる文字はより好まれやすく、より選択されやすいという「ネームレター効果」が利用されている⁹⁾。ネームレターテストを通して、無意識に家族や自分の名前を選んでいることに気付かせるために児童が選んだひらがなと保護者が選んだひらがなの共通点を探させた。次に、クラブネームを行い短い、時間の中で自分の名前を沢山呼ばれる経験をした後、四者択一で自分や友だちの名前をしっかりと呼び合える時間を設定した。最後に、振り返りを行い名前について考える時間とした。

第5学年 特別活動学習指導略案

1. 導入
 - ・名前カードを配る
 - ・自分の名前
2. 展開
 - ・相手の名前を大切に扱うこと、相手に思いやりを持ちながら大切に接することにつながるという事に気付かせることとする。
3. 活動の展開

| 学習活動 | 教材の活用 |
|---|---|
| 1. ネームカードを行う。 | ・相手の名前を大切に扱うこと、相手に思いやりを持ちながら大切に接することにつながるという事に気付かせることとする。 |
| 2. 相手の名前を大切に扱うこと、相手に思いやりを持ちながら大切に接することにつながるという事に気付かせることとする。 | ・相手の名前を大切に扱うこと、相手に思いやりを持ちながら大切に接することにつながるという事に気付かせることとする。 |
4. 振り返り
 - ・振り返りシートに記入した内容を振り返り、自分の感想や気づきを書きなさい。

図4 「自他の尊重」学習指導略案

2) 教材開発

図5に作成した教材を示す。教材の使用方法は次の(1)～(3)の通りである。

- (1)聞き取りワークシート(図5①)を作成し、児童が保護者に聞き取る場を設定した。聞き取り内容としては、『お家の人が、子どものころの「よばれ方」は何だと思えますか?』『お家の人が好きな「ひらがな」は何だと思えますか? (3つ)』『お家の人は、みなさんの名前をいつ頃から覚えていたと思えますか?』の3項目であった。
- (2)阿部(2012)が作成したひらがな一覧版ネームレターテスト(図5②)を使い、71個のひらがなから児童が好きなひらがなを10個程度選ばせ、その文字の下に○をつけさせた。
- (3)ワークシート(図5③)に書かれた絵と同じ人を探し、4人グループをつくらせた。その後ワークシートの各項目について、なぜ、それを選んだのか、相手に質問をさせた。質問をする際は、相手の名前を入れて質問を行うよう助言した。



図5 作成した教材

3) 通信

図6に作成した通信を示す。

通信の内容構成については、2-2の3)で述べた通りである。



図6 作成した通信

3. 結果及び考察

3-1. 「他者理解」の授業及び考察

「他者理解」に関する児童の学習結果を表3に示す。他者理解の授業実践において、95%以上の児童が「よくできた」もしくは「できた」と回答していたことから、児童は意欲的に取り組めたことが示唆された。

表3. 他者理解に関する学習結果

| 項目 | 他者理解% (n) |
|-----------|-----------|
| よくできた | 81.7(76) |
| できた | 14.0(13) |
| あまりできなかった | 3.2(3) |
| できなかった | 1.1(1) |

児童の授業感想を表4に示す。

表4. 「他者理解」についての授業感想（児童）

・みんな意見を出してくれたりしてとてもうれしかったです。でも、あまり意見をだしてないひとがいたのでその人も意見をもっと出してほしいと思います。・全員意見を出せていた。・少しまとまってないところもあったけどみんなががんばってできていた。・色々な大統領がわかったり、その大統領の出身地がわかったからよかったです。・最後までできたのがよかった。・出身地のことがあまりわからなかった。・世界の大統領のことがわかった。・みんなで頑張ることができた。・班のみんなが自分の考えを発表し、協力してできたので良かったと思いました。・話こ入れたからよくできていたと思います。・みんなとなかよく協力できた。・みんなと協力して、全部の問題をとくことができた。・みんな協力してできていた。・話をしっかり聞くことができた。・色々な国があることを知れた。・意見をみんな言えていた。・みんな協力して情報を伝えていて、とてもよいと思いました。・みんな協力してできていた。・みんな協力してできたので良かったです。次もがんばりたい。・助け合いは大事と思った。・みんなと仲良く意見をいながらできた。・自分の意見をはっきり言えた。・みんなで力をあわせてできた。・みんな授業にしっかりと取り組んでいた。・みんな協力して活動できていた。・みんな一生懸命頑張ってくれた。・記録をみんなできていた。・今日の授業は楽しかった。自分や友だちのさらなるよいところを見つけれた。・班長の〇〇君がみんなの意見をまとめてくれていた。・みんな楽しくできていたので良かったです。・なかなか難しかった。・一人ではできないことや、思いつかないことをまわりの人が考えてくれて協力してくれてうれしかったし、みんな積極的に意見を出したので、協力することは楽しいことがわかりました。また、このような活動をしたいです。・これからは人のことをたくさん見て、友だちの良いところをたくさん見つけて生活したいです。・みんなと一緒に協力出来た。特に〇〇君ができていました。・みんなと協力できるようにがんばりたい。・みんな協力してできたと思う。1つだけ間違いがあったけどできた。・みんな仲良く協力してできてよかった。みんな楽しそうでもよかった。みんなと話し合っただけでも仲良くなれたと感じました。またやってみたいなと少し考えました。・今日の活動でみんな考えてのが正解した。・みんなと良いことをしたことがいいと思った。・今日の活動でみんな協力して今日の課題に取り組めたと思います。またやりたいです。・みんなが言い合っただけでわかったから、今日の活動ができたと思います。・このような勉強で、班と協力するということの大切さにあらためて気づくことができました。・あまりしゃべる機会がなかったからできました。最後に全員大統領だったのでびっくりしました。とても楽しかったです。また、やりたいです。・みんなと、読み合っただけです。たのしかったです。また、やりたいです。・頑張ろうという気持ちがあった。そして協力して、完成した瞬間うれしかったと感じた！！・初めてこの班でやったけど、みんなすごく話を聞いていました。あと、みんなすごく楽しそうにしていました。・今日の活動は、すごく楽しかったです。なぞときみたいでした。ぼくは、こういうのが好きだったので楽しかったです。それに、またみんなの仲が深まりました。・この班で協力するのは楽しかった。今後は、みんな協力するのを続けていきたい！・みんなの意見や自分の考えも言えたりみんなワークシートを仕上げるのがとても難しかったけど、みんな協力できたから仕上げられたと思いました。・みんなよく考えて、協力し合っただけからできました。最後に全員大統領だったのでびっくりしました。とても楽しかったです。また、やりたいです。・みんなと、読み合っただけです。これからは協力していったらいいと思いました。・今日の活動で感じたことは、みんな協力してできていた事と、考えたことはみんなどの国に何があるかを考えて活動できていた。・今日のようにこの班が終わるまで、協力してケンカもしないですばらしい班にしていきたい。・みんなたのしくやるともったのしくなることがわかった。・協力してできたのでまた、こういう活動をしてクラスの仲を深めていきたい。・グループのみんな協力して、意見をだしてできました。・みんな協力して何かをすることはとても大切なことだと改めて気づきました。これからはみんな協力してがんばろうと思います。・自分達の意見をしっかりと持って発表した時、みんながちゃんと聞いてくれてうれしかった。これからは、こんな風に楽しい活動をしたい。・協力して意見や考えを出されて、みんなが自分の意見も聞いてくれたので良かったと思います。また、こんなことをやりたいです。・わたしおしゃべりをせずにみた画像が不思議でびっくりしました。また、今度もやってみたいです。すのが楽しかった。・みんな考えてたりしてよかった。この活動を通してみんなが協力することができたと思います。とても楽しかったです。またやりたいです。〇〇さんがすばやく記録してくれていました。・4人が協力してできていました。1人1人が頑張ったからできたと思います。これからは全員が協力してほしいです。・みんなが1つとなって、協力できていた。班の人の良いところなども見つけられたのでよかった。ワークシートも協力できていた。・ちょっとまとまったけど、全部合格してよかった。・全員がちがう情報をもって整理するのは大変だったけど整理できた。・これからは協力してやりたいです。・協力してできていた。あと、みんながみんなの話聞くことができていた。・意見もたくさん言えたりみんな協力できた。・協力して話して書けた。・協力してみんなとできた。・みんな協力してよくできた。・これから友だちのいいところをたくさんみつけていきたいです。・よくできた。今日、みんな意見を出してワークシートを全部うめれることがうれしかったです。自分1人ではわかることが少なかったりしたので、みんな意見を出し合っただけで協力していくことはいいことだと思いました。・カードの書いてある文だけで全部わかったことがすごかったです。・みんな協力することがわかりました。あと、みんな一生懸命に意見を出し合うことがしっかりできました。・みんな発表できたし意見を出すことやまとめることができてよかったです。みんな考えてできた事も良かったです。・みんな協力できた。友達の良いところを気が付けた。みんな協力することが楽しかった。・みんな話し合いでも、何でもいやともしずりにできていて、いいなと思いました。・みんな協力して早くできたことを感じた。・楽しくみんな協力出来た。・協力して全てをうめれたのでよかったです。・班みんなよく活動ができたのでよかったです。・意見をみんな出し合っただけで楽しくおももしろかった。・みんな楽しそうにやっていたのでいいと思いました。これからは協力していきたいです。・協力して、意見を出し合っただけで楽しかったです。・色々な国の人が住むマンションの住人を考えてできました。困っていることも、アドバイスしてくれました。みんな考えて話し合っただけで、班の人の良いところを見つけることができました。・まあまあできた。熱心に考えたのがよかった。・出身地と住んでいる人の名前とかを探るのが楽しかった。・みんな考えてたりしてよかった。この活動を通してみんなが協力することができたと思います。とても楽しかったです。またやりたいです。〇〇さんがすばやく記録してくれていました。・4人が協力してできていました。1人1人が頑張ったからできたと思います。これからは全員が協力してほしいです。・みんなが1つとなって、協力できていた。班の人の良いところなども見つけられたのでよかった。ワークシートも協力できていた。・ちょっとまとまったけど、全部合格してよかった。・全員がちがう情報をもって整理するのは大変だったけど整理できた。・これからは協力してやりたいです。

授業感想から「協力できた」「友達の良いところを見つける事ができた」「話をしっかり聞けた」等の記述が多く見られた。他者のいいところに目を向けるきっかけとなったことが考えられる。

3-2. 「自他の尊重」の授業及び考察

「自他の尊重」に関する児童の学習結果を表5に示す。
 自他の尊重の授業実践において、95%以上の児童が
 「よくできた」もしくは「できた」と回答していたこと
 から、児童は意欲的に取り組めたことが示唆された。

表5. 自他の尊重に関する学習結果

| 項目 | 自他の尊重% (n) |
|-----------|------------|
| よくできた | 64.2(61) |
| できた | 31.6(31) |
| あまりできなかった | 0(0) |
| できなかった | 3.2(3) |

児童の授業感想を表6に示す。

表6. 「自他の尊重」についての授業感想（児童）

・ニックネーム等を意識してよんだりすることができた。・意識するととくることが多かった。(おかしところや間違いを見つけられるから)・もっと人に聞きたかったけど楽しくできました。・意識をしていなかったら気づかないことがたくさんあることが多かった。・友達とちゃんと話し合うことができた。・みんなに質問した時、意識をちゃんとできたのがよかった。・意識してできたと思う。友達の名前や好きなことが多かった。・相手の名前を意識していることで相手の名前がどれだけ大事かあらためてわかりました。今日の活動とても楽しかったです。・みんなと今日色々な話をしてよかったです。特にエクササイズがすごく友だちとの仲が深まったと思います。だからまた、友だちの色々な所を知って話したいです。・これからも意識して話せるようになりたい。・お家の人が好きなひらがなは何だと思いますか?」を家族とこねご「は・ゆ・も」なのか聞いてみると「は」○○ちゃんの「は」で「ゆ」は○○の「ゆ」といわれてとても感動しました。・今日みんなで作った名前をいう活動がめっちゃ楽しかったです。1日で全員の名前を言うことはいないのでもい体験になりました。・今日意識して友だちと活動できて楽しかったです。・これから人をあだ名でよばないようにする。あだ名で呼んでいる人がいたら注意をする。・いつも楽しい授業でいつも楽しいです。今日協力してできたのでよかったです。・名前が大切だなんて思いました。わたし、その人の親がつけた大事な名前からです。私は今度の授業が楽しみです。・色々な人の名前が呼ばれたのでよかったです。・あまり呼んだことのない人の呼んでみて、変な気持ちにならないか心配したけど、大丈夫だったのでまた仲良くしようと思います。・これから意識をして友だちの名前を言うていく生活をしたいです。・これからみんなの名前を大切にしようと思います。みんなとまたこの活動をしてほしいです。・またやりたいと思うくらい楽しかったです。みんなと協力してできたし、よばれている名前も知ることができた。・今日は名前の勉強をした。人の名前をいう時これから意識しようと思った。・みんな協力してみんな笑顔でたのしくできていた。とくに○○ちゃんがすごく楽しそうだったのでよかったですと私は思いました。・今日は楽しく勉強してみんなの名前を大切に、自分の名前も大切にできて意識は大事なんだなと思いました。・友達の名前を大切にすることに気が付きました。・これからはみんなのいやなあだ名をいっけなないと思います。・ぼくは意識をもつことが大事だと思いました。とても楽しかったです。・みんなの名前を言い合ってみんなとの仲がもっと深まったと思うから、これからももっと仲を深めたいです。・わからなかったみんなの名前を覚えたり、映像で1人増えたりするのになんか嬉しかったので楽しかった。・みんなといっしょにクラブネームができて楽しかったし、人の嫌な呼び方をしないようにしようと思った。・〇人で名前を呼び合って仲良くできました。色々な名前ができて楽しかったです。またやりたいです。・みんながたのしく活動できていたので、楽しかった。・意識することで、黒い物を見つけたことができました。意識もとても大事とわかりました。・今日はぼくのせいでみんなこめいやくを掛けてしまいました。でも○○君が「大丈夫△△が悪いんじゃない、気にするな」と優しく声をかけてくれてうれしかったです。・みんな嫌なよびなよびじゃなかったのでもいと思えました。・他の人のニックネームが知れたのでよかったです。意識をすることが大切なんだとわかった。人の考えや意見を聞いてよかった。・好きなひらがな理由があって選んでいることが多かった。・意識したら今まで気づけなかったことにも気づけた。・みんなの名前を大切にしようと思った。・今日の勉強で友だちのことをいっけなない知れたし、話もきけてよかった。友達の名前を大切にしようと思いました。・友達の名前の大切さがわかった。名前の呼び方、相手のほしいものを学んで、相手のことを知りました。相手の名前、自分の名前の大切さを知ることができました。「意識」というテーマの意味も知ることができたのでよかったです。・みんなと協力したり、話し合ったりして、みんなのことがわかりました。・人の名前を大切にしないといけないんだなとおもいました。これからも人の名前を大切にしたいです。・私は今日みんなの好きなものがわかりました。・みんなと仲良くできたし、相手の事も知れてよかったです。これからも友達の名前を大切にしていきたいと思いました。

児童の授業感想から「意識できた」「名前を大切にしていこう」「仲が深まった」等の記述が多く見られた。「名前」については、授業実践者が教員生活を続けてきた経験から、どの学年でもからかいの材料になりやすく、いかに真剣に大切なものと捉えさせるかが常に課題であった。本授業だけでなく様々な場面でお互いの名前の大切さを児童に意識させていくことが、自他の尊重につながっていくと考えられる。

3-3. 自他の尊重授業後の保護者アンケート結果及び考察

「自他の尊重」授業実施後に発行した通信に付した保護者アンケートの結果（保護者）を表7に示す。なお保護者からの回答率は35.8%（95家庭中34家庭）であった。

質問項目『「名前の授業」を通してお子さんと学校生活についての会話が増えたと思いますか?』に、「あてはまる」と回答し

表7. 保護者アンケート結果

| 項目 | % (n) |
|------------|----------|
| あてはまる | 14.7(5) |
| ややあてはまる | 44.1(15) |
| あまりあてはまらない | 32.4(11) |
| あてはまらない | 8.8(3) |

た者が5名(14.7%)、「ややあてはまる」が15名(44.1%)、「あまりあてはまらない」が11名(32.4%)、「あてはまらない」が3名(8.8%)であった。このことから、授業を介して学校生活に関する会話が増えたと回答した保護者の割合が6割弱であったことが明らかとなった。

保護者からの返信コメント(自由記述)を表8に示す。

表8. 保護者からの返信コメント

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・「良いところ」を口にする、声に出すことによって、相乗効果が生まれ「1人にとってのいいところがみんなにとっていいところ」になり、思いやりの気持ちも多くなると思い、とても良いと思いました。・見た目だけで判断するのではなく、色々な角度から見ると色々な面が見られることに気付ける授業はいいと思いました。友達の前で自分の意見が言えて友達の意見もしっかり聞いて一生懸命取り組んでいるすごいなと思います。 ・人との関わりは教科書を読んで理解できるものではなく、やはり人と関わり、様々な経験をするのが大切だと思います。いい授業だなと思いました。 ・家族の中でも「いいところみつけ」を一時期やっていたのですが、この授業を機にまたやっていきたいと思いました。人の良いところを見つけるということは、自己分析ができて、人から学ぶ機会が増えること。完璧な人はいないけれど、他人は必ず自分よりも優れたものを持っている。努力してでも意識的にいいところを見つけていけるように心がけていけたらと、子供の授業を通じて親としても思いました。子供に沢山自信を持ってもらいたいです。 ・見た目だけで判断するのではなく、色々な角度から見ると色々な面が見られる事に気付ける授業はいいと思いました。友達の前で自分の意見が言えて友だちの意見もしっかり聞いて一生懸命取り組んでいるすごいなと思います。 ・お友達や自分の良いところを見つけていくことはとても良いことだと思います。これからも色々な場面で協力しながら協調性を身に付けて皆が楽しく学習し成長して行ってほしいなと感じます。 ・興味をそそられる授業をしているなと思います。娘もおもしろかったと喜んでいました。・友だちの良いところも知るところも含め、受けとめられる大人になってほしいものです。 ・人との関わりは教科書を読んで理解できるものではなく、やはり人と関わり様々な経験をするのが大切だと思います。いい授業だなと思いました。 ・名前が選ばれる中から何日も何日も一生懸命考えて決めた名前です。ときには“あだ名”で呼ぶのもいいですが不快な思いをする呼び名はダメだと思います。自分の名前、お友達の名前を大切に扱うと同様にこれからもお友達を大切にしていきたいです。 ・ネームレター効果、初めて聞きましたがたしかにそうだなと感じました。子供より授業の話を楽しくそうに話してくれました。 ・他の人の気持ちもわかる良い授業だと思います。良い言葉を口にする事で、気持ちや行動も必ず良い方向にベクトルが傾くと思います。 ・名前を大切にすることは、その人を大切にすることだと思うので、よい勉強だと思う。 ・「呼び捨てをしないでくださいね」と教えても「何でだめなの?」と聞かれてもちゃんと答えられませんでした。この授業を通して名前につけられた想いなど、大事な事を考えるきっかけになったと思います。ありがとうございました。 ・ネームレター効果という言葉は初めて聞きましたが、「なるほど」と思いました。 ・今の子ども達にとってとても大切な勉強をして下さっているのだなあと感じました。自分の事をしっかり考えたり、他人の事を考えたり、それぞれ違った考えや思いを持っていても話し合うことで良い結果につながることをもっともっと体感してもらいたいです。私たち大人も頑張りたくないといけないと思いました。 ・「ネームレター効果」は初めて聞きました。面白いですね。何気なく発したことが、相手を喜ませたり、暗くは悲しませることを知って気遣いのできる人になってくれればと思います。 ・良いところ」を口にする、声に出すことによって、相乗効果が生まれ1人にとってのいいところがみんなにとっていいところになり、思いやりの気持ちも多くなると思い、とても良いと思いました。 ・楽しい授業だと言っていました。お互いの良いところを見つけて認め合うのは大切ですね。大人もつい忘れがちだと思うことに気づかされます。 ・相手を思いやる心を育む授業は大変大切だと思います。「名前」からそれを学ぶのは良いアイデアだと思います。期待しています。 ・友だちの名前の由来を聞き想像することは大事な事だと思います。 ・みんなで協力し合い、認め合い、成長し合えるのが児童の感想より感じられ良かったです。 ・自分の考えをしっかりと伝え、他者の意見も聞き入れながら成長して行ってほしいですね。 |
|--|

鈴木(2012)は、「学級経営における学級通信の役割」⁶⁾において、『学級経営において重要な役割をはたす学級通信を生み出すためには「子どもの生活の様子」や「授業の様子」を重視することが大切である』と述べている。本研究で発刊した通信では、子どもの生活の様子や児童の授業の様子に加え、授業内容を記載し、家庭でも児童が学校で学んだことを親子で一緒に考える場とした。通信を見た保護者からは、「人との関わりは教科書を読んで理解できるものではなく、やはり人と関わり、様々な経験をするのが大切だと思います」「今の子ども達にとってとても大切な勉強をして下さっているのだなあと感じました」等の返信コメントが寄せられた。このことから、他者理解・自他の尊重を柱とする人間関係づくりの授業内容に、保護者が関心を持ってくれたことが示唆された。ただ、回答・返信コメントのあった保護者は、子どもとの会話を日頃から意識している可能性が高く、全ての保護者において、本実践がどのような影響を与えたかについて明らかにするまでには至らなかった。

IV. おわりに

これまで保護者が学校の授業・行事に関わる機会は、授業参観や親子行事等、年数回程度に限られていたが、本研究で発刊した通信を通して、保護者に少しでも日常的な授業に触れてもらう機会を設けたことにより、担任と保護者、児童と保護者をつなぐことができる可能性が見い出された。本研究から、コミュニケーションの活性化と人間関係の醸成に焦点をあてた授業プログラムを介して、学級集団内だけでなく家庭内でのコミュニケーションが活性化される可能性が示唆された。これらの取り組みが不登校予防につながることを期待する。今後は、コミュニケーションのあり方について考える授業提案をしていく必要があると考える。

謝辞

本研究の実施にあたり、調査に快くご協力いただきました保護者の皆様、ならびに教職員の皆様に心より感謝申し上げます。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省 (2018) : 「平成 30 年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」
- 2) 滝口美樹・吉川はる奈 (2014) : 「小学生における仲間集団 (ギャンググループ) 形成の特徴とその役割」.
埼玉大学教育学部教育実践総合センター紀要 pp85-89
- 3) 西村馨 (2007) : 「小学校に対する心理教育グループの課題, デザイン, 実践」
- 4) 佐々木正輝・菅原正和 : 「小学校における学校心理学的援助の方法と構成的グループエンカウンター (SGE) の有効性」.
岩手大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要 第 8 号 107-117
- 5) 大和和雄・小泉令三 (2015) : 「家庭と学校で共に育む子どもの学校適応に関する研究」.
福岡教育大学大学院教職実践専攻年報 第 5 号 47-54
- 6) 鈴木健二 (2012) : 「学級経営における学級通信の役割」.
愛知教育大学教育創造開発機構紀要 VOL. 2 103-111
- 7) 鹿嶋真弓 『うまい先生に学ぶ 学級づくり・授業づくり・人づくり』 図書文化社 2016 年
- 8) 河村茂雄 『エンカウンターで学級が変わる 小学校編』 図書文化社 1996 年
- 9) 阿部宏徳 (2012) : 「ひらがな一覧版ネームレターテストの作成」.
東京成徳大学研究紀要 一人文学部・応用心理学部一 第 19 号 pp29~37